

12/6

グリーン・ツーリズムの更なる発展を

九 九州各県のグリーン・ツーリズム実践者などが集

交流や意見交換を行う「九州グリーン・ツーリズムシンポジウム2012 in長崎」がシーハットおおむらで開催されました。九州は全国的にグリーン・ツーリズムが盛んな地域で、本市でも体験型観光農園や農家民泊などの活動を行う8軒が営業許可を受け、都市住民との交流を図っています。会場では、県内の郷土料理などを味わうフード交流会や、前日に県内各地で交流した成果を発表するパネルディスカッションが行われ、それぞれの魅力を語りながら、交流を深めました。

九州グリーン・ツーリズムシンポジウム2012 in長崎



12/11

初代賞金女王をかけた全国で初開催

開 設60周年を迎えたホー

トレース発祥の地大村で「GI第1回賞金女王決定戦」が開催され、初日に行われた開会式では、松本市長が主催を宣言しました。このレースは、全国発売のGI競走として今年度から創設されたレースで、本市が栄えある初開催の地となりました。女子選手の賞金王が決定する最高峰のレースを二目見ようと県内外から、6日間で約2万8千人が訪れ、大村ポートレース場は大盛況。売上目標を大きく上回る結果を達成し、地元経済へも大きな効果をもたらしました。

GI第1回賞金女王決定戦



12/14

日中交流のさまざまな作品を展示

市 制70周年記念「日中友

好書画交流展」が市コミセンで開催され、開場に先立ち開幕式が行われました。開幕式には、松本市長のほか、中国駐長崎総領事館の李文亮総領事や市文化協会の笹山トヨ子会長などが出席し、テープカットで開場を祝いました。交流展には、これまで中国との交流に多大な功績があった日中文化資料館の馬場恵峰館長が、中国の著名書家や画家との交流の中で寄贈を受けた作品の数々や、ご自身の諸作品などを展示され、多くの人が訪れました。

市制70周年記念日中友好書画交流展



母と子の会話
「なぜ？」

市長コラム vol.18

小学1年だった私の一番の楽しみは、県庁から県営バスに乗って帰ってくる母を、福重のバス停まで迎えに行つて家までの道のりを母とゆつくり歩きながら話すことでした。

「迎えに来てくれてありがとう」と母はニコリ笑って言ってくれていました。九州初の女性県議をしながら、家を入りでもりもりする多忙な母でしたが、幼い私の歩調に合わせて、ゆつくり歩きながら幼い私の話を耳を傾けてくれました。

昔は洗濯機がありませんでした。近くの小川で洗濯する母に寄り添って、「海の水はなぜ、塩辛いのかなぜ？」と尋ねると、困った母はしばらく考えこみ、

「たーちゃん、それはね神様がお塩を入れたのよ。ね、お塩は消毒したり、食べ物やなごもささせたりする力もあるでしょ」

「あ、そうか。それで魚を塩漬けにしちりすつとネ」

私の話は止まらなくなりました。

「おかあさん、おかあさん。石のこと英語でなんて言うの？」

「ストーンって言うよ」

「へー、そのまんまなんだ。すーん、か、うーん」

自分だけが親と会話できる時間に、喜びや幸せを感じる時が皆さんにもあったのではないのでしょうか。また、時代が移り変わっても子に對する親の愛情、子が親と居たいという気持ちは変わるものではないと思います。

中心市街地の「浜屋」さんの前、旧親和銀行跡地に、建設する市民交流プラザは平成26年の秋オープンを目指します。4階は「こども未来館」で雨の日でも遊べる大型遊具を設置したり、子育てするお母さんやお父さんたちの意見交換、交流の場、また親子の会話の場としても使っていたらと考えています。親子の会話「なぜ？」が途絶えない場にしていただけると期待しています。

新年度、小・中学校では学校司書の増員を図り、伸び行く子どもたちにたくさん本を読んでもらう機会を作つて「なぜ？」を解決できるように計画します。さらには、心の相談員の配置について充実させ、子どもたちの「なぜ？」という心のサインにも応えることができるよう努めます。